

タイトル:平成 26(2014)年度 研究セミナー(第 15 回)

日程:平成 26 年 12 月 19 日(金)~21 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「エジプトの小麦部門と食糧補助金制度 - 現地調査の中間報告」

井堂 有子 (東京大学大学院)

12 月 19 日からの 3 日間、「中東☆イスラーム研究セミナー」に参加させて頂いた。今年で 10 年目という本セミナーをこれまで継続されてこられた先生方と事務局の方々のご尽力にまず深く敬意を表し、貴重な機会を与えて下さったことに篤くお礼を申し上げたい。

今回、「エジプトにおけるパン補助金制度」という題目で、博士論文構想と現地調査に関する中間報告をさせて頂いた。調査実施が直近(10 月~11 月)であったこともあり、内容整理や問題提起のあり方が不十分な段階での情報過多のご報告となってしまう反省頻りであった。にもかかわらず、仮説や研究の問い、対象期間選定、ディシプリンの課題、といった研究の大枠から現地調査に関する細部に至るまで、先生方から実に鋭いご指摘やご質問、貴重なアドバイスを頂戴することができた。他の参加者の皆さんのご報告に関しても、地域・時代設定の幅や多岐にわたるテーマとディシプリンでありながら、研究の枠組みや調査の手法では多くの共通項・課題があり、それぞれ非常に興味深くお聴きました。最後の小副川さんのご報告の中で、北の国の修道院のような環境において熱意と集中力でもって博論執筆を貫徹されたとお話しに、襟を正す思いを強くした。特に、2 週間毎に原稿を指導教授に提出し指導を受けながら論文全体を完成させて行かれたというお話は非常に具体的でかつ示唆に富むものであった。加藤先生が 2 日目に呟かれた「書くことは排泄行為と同じこと」というある種衝撃的なお言葉とともに、なかなか書き出せないでいる報告者にとっては大いなる刺激を頂いたと有難く思う。

昨年の教育セミナーの時にも感じたが、それにしても AA 研は知の宝庫である。時代や分野、ディシプリンを超えてどのようなテーマの研究報告に対してもいろんな角度からずばずばと切り込むことができるこの研究者の皆さんは一体何者であろうか。(エジプトにおいて「パン屋」を意味する言葉として、アラビア語起源のマフバズ *makhbaz* よりももっと日常生活レベルでフォルン *furn* が使われている印象があったが、この単語がギリシア語起源と教えて下さった高松先生、ありがとうございました。)

改めて、貴重な機会を与えて下さったセミナー主催の関係者の皆さまに深くお礼申し上げます。

ありがとうございました。